

光化学スモッグの発生に注意

■光化学スモッグとは

これから春を迎え、日差しが強くなるに伴い、『光化学スモッグ』が発生しやすい季節になります。気温が20℃以上で、風が弱く、晴れているのに空に白くもやがかかるときは、光化学スモッグに注意が必要です。

■光化学スモッグの症状

- ・目がチカチカ、喉がイガイガなど

■症状が現れたら

洗眼やうがいなどを十分にいきい休息してください。回復しない場合や、咳や頭痛などの他の症状が続く場合は、医師の診察を受け、役場や阿蘇保健所、県の環境保全課までご連絡ください。

※光化学オキシダントの濃度が基準を超えたら「光化学スモッグ注意報」を発令します。注意報が発令されたら屋外での運動などをやめ、できるだけ早く室内に入ってください。

■大気環境情報メールに登録を！

県では、注意報の発令と同時にメールを配信する「大気環境情報メール」サービスを行っています。ぜひ、ご登録ください。なお、本メールではPM2.5のお知らせも配信します。

「光化学スモッグメール」登録方法

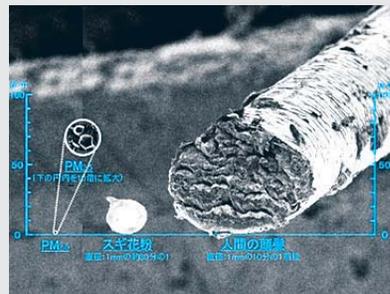
「sky@123123.tv」に空メールを送信し、自動返信されるURLにアクセスして、指示に従って登録してください。QRコードはこちら）→



微小粒子状物質「PM2.5」

大気中に漂う粒径2.5マイクロメートル（μm）以下の小さなものを、微小粒子状物質（PM2.5：Particulate Matter）と呼んでいます（髪の毛の大きさ：50から100μm）。微小粒子状物質は、自動車の排ガスや工場のばい煙など発生源から直接排出されるものや、大気中の揮発性有機化合物、窒素酸化物等のガス成分が光化学反応により生成されます。近年では大陸からの大気汚染物質が日本に影響を与えることが懸念されています。

（東京都環境局ホームページより引用）



【PM2.5の大きさの比較】

■環境基準

1年平均値が15μg/m³以下であり、かつ、1日平均値が35μg/m³以下であること。（H21.9.9告示）

■健康への影響は？

この物質は、粒径が小さいことから、肺の奥深くまで入りやすく、粒子表面に様々な有害物質が吸収・吸着されているため、健康影響が懸念されています。

■測定体制

熊本県では、県内の大気環境の状況を常時監視しています。微小粒子状物質（PM2.5）の測定結果については、熊本県のホームページをご覧ください。

〈お問い合わせ〉

県環境生活部環境局環境保全課 Tel.096(333)2269
役場 環境対策課環境保全係 Tel.(67)3176

小水力発電事業に“待った”

河陰地区の農業用水路を活用した小水力発電事業が現在ストップを余儀なくされています。

村内の企業、個人のほか、県内の企業などが出資して昨年4月に設立した「南阿蘇水力発電株式会社」は、久木野村土地改良区の農業用水路の流末から、総延長932m、有効落差約37mの高低差を利用して、最大出力198kW、年間発電量137万kWの小水力発電事業の建設計画を進めています。

同社は、発電事業に向けての事業資金を確保し、本年1月経済産業省へ固定価格買取制度に伴う設備認定手続きを終え、九州電力（株）の送電設備に連係（系統連系）手続きを行う中で、阿蘇地区の3発電電所（黒川第一発電所、一の宮変電所、高森変電所）から大津変電所に送る送電線の熱容量（送電能力）が不足することから、接続できない状況です。メガソーラーや地熱発電など、このほかの再生可能エネルギーも同様で、このようなケースは全国的な問題となっています。

この対策として、九州電力

（株）では新たに送電線を3年程度かけて整備。その工事費数億円を、今後、送電線に接続予定の事業者が負担する計画が進められています。

同社では、送電線への接続を目的とした複数事業者の1員として、九州電力（株）への負担金を支払ったうえで、小水力発電事業を並行して進めていく計画。

当初の事業スケジュールから大きく遅れているため、地元久木野村土地改良区などを通じて皆さんへの十分な説明が必要となっています。

〈問い合わせ〉
役場 企画観光課企画係
Tel.(67)2230



立野地区から大津方面につながる送電線